

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671800427		
法人名	医療法人 一樹会		
事業所名	グループホームサンファミリー		
所在地	徳島県美馬市脇町字拝原1354番地2		
自己評価作成日	平成26年7月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成26年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に馴染んだ生活を維持していただくため、自立した生活が困難になった利用者様にも家事やレクリエーション、外出など施設生活を楽しんでいただくように取り組んでいます。利用者様が出来ること、出来ないことを把握し可能な限り出来ることをしていただけるように取り組んでいます。施設内だけでなく、農園作業、外出などに参加できるように機会をつくっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、“地域に根ざした生活様式を保ちながら、利用者との結びつきを大切に、家庭的で明るく笑顔が絶えないホーム”を目標に取り組んでいる。近隣の農園では、農家の方達と野菜等の苗植えを行ったり、地域の小学生と収穫を楽しんだりしている。利用者を見守りつつ、一人ひとりのしたいことと、できることに着目した支援に取り組んでいる。一部の利用者が地元新聞の書き写しを始めたことをきっかけとして、定期的に職員とともに新聞販売店へ出かけて交流を図るなどの取り組みも見受けられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	東ユニット		外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝のミーティング時に全員でサンファミリー理念を唱和し、事業所と地域が一体となってサービス提供できるように、管理者と職員は常に念頭に置いている。	全職員で、朝のミーティングや申し送り時に理念を唱和し、事業所と地域が一体となってサービスを提供することができるよう努めている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	江原南小学校入権委員会の児童との交流(さつま芋の植え付け・収穫)や、地域の方に野菜苗を頂くなど、地域との交流を続けている。	事業所では、地元の小学生とともに栽培した薩摩芋の収穫を行ったり、農園の経営者から野菜の苗をいただいたりしている。また、日頃から、地域の祭りや触れあい会に参加するなど、地域の一員として交流を図っている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常介護で得た認知症ケアに関する知識や取り組みへの経験のなかから、地域交流の機会を通して、高齢者の暮らしに少しでも役立てられるような取り組みを行っている。				
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域自治会長様より、サンファミリーの防災訓練に参加させてほしい、との意見を頂き地域との協力の下、訓練を行っている。	運営推進会議には、利用者や家族、自治会長、地域住民の代表者、消防署員、市担当者、地域包括支援センター職員の参加を得ている。会議では、防災・減災のほか、市の行事等についても活発に話し合っている。利用者から出された要望等について検討を重ね、サービスの質の向上に反映している。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員と機会あるごとに連絡をとり、待機者の有無等、また運営推進会議への出席を依頼している。	機会あるごとに市担当者と連絡を取り合っており、情報交換を行ったり、アドバイスをもらっている。話し合った結果を、サービスの質の向上や改善に繋げている。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないことを原則として徹底している。玄関の施錠は、往来の激しい立地条件の為、事故防止として施錠はしているが、家族様に説明・了解をいただいている。	全職員で身体拘束の内容と弊害を正しく理解するよう努めている。事業所周辺は車の往来が多いため、安全確保の理由から、家族の了解を得たうえで施錠しているが、利用者が入りやすい裏側の農園出口はつねに開錠するなどの工夫を行っている。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する研修を年2回ホーム内研修として行っており、職員全員に周知を図っている。				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			東ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、成年後見制度についてホーム内研修を行い、また家族様にも説明し必要に応じて適切に活用が出来るよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約内容をゆっくり説明し、利用者様・家族様等に十分納得いただい上で、押印契約締結を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者様・家族様の参加をいただき、意見を表出させている。	利用者や家族が、気軽に意見や要望等を表出しやすいよう体制整備を図っている。利用者や家族の希望・要望等の把握に努め、運営面に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者や管理者は、情報交換会(ミーティング)やケース会議等の機会を通して職員からの運営に関する意見や提案を聞き取り、現場の意見や考えを尊重しながら、それをホーム運営に反映できるよう努力している。	代表者と管理者は、ミーティングやケース会議等の機会を通じて、職員の意見や提案を直接聞きとるようにしている。出された意見等を事業所の運営面に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、定められた労働時間を厳守し、更に休養が確保できる休日体制をとるなどして、働きがいのある職場環境や労働条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護の経験者、未経験を問わず、サンファミリーの理念に適った人材を育成するために、継続的にホーム内研修会を実施したり、日常の介護業務に携わる中で介護理念や技術等を習得出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、美馬市グループホーム連絡協議会に参加しており、今後職員のホーム間交流を実施していけるよう計画予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			東ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様本人は、生活に対する不安や戸惑いが大きいというため、利用の相談から入居に至る過程において、本人の意向や希望を聞き取る機会を多く持ちながら、良好な関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	あらゆる機会を通じて家族様の要望等を聞き取り、問題の解決に結びつけることができるよう、家族様との信頼関係の構築に努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時点から、本人様家族様が今一番必要としている課題やニーズをしっかりと見極め、日常生活全般でのサービスを提供するなどしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は調理や掃除、洗濯等の日常生活を利用者様と共に過ごす中で、相互に支え合う関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、利用者様を支援するに当たり、家族と「支え合う」という共通の認識に立って、何事も家族に相談し家族の意向を尊重しながら、本人を支えていくという関係作りに努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等の来訪時には、居室でソファ等にてゆっくり話をしたり湯茶をもてなすなど配慮しながら、これまでに培ってきた人間関係が途切れることのないよう支援している。	利用者の友人や知人の来訪時には、居室でゆっくりと会話を楽しんでもらえるよう、湯茶を出すなどの接待を行っている。また、利用者の馴染みの理・美容院へ出かけたり、毎月、新聞販売店へ書き写しの専用ノートを買って出かけたりの利用者もおり、新しい人間関係作りの支援にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様個々の個性や特徴を把握し気の合う者同士楽しく過ごせる環境作りに努めている。また職員は利用者様同士の支え合いが出来るよう、その調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			東ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退居された利用者様には、時々お見舞いに行きその後の様子を尋ねるなどして、関係継続に努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者様の傍に寄り添い、その人が今何をどう思っているのか把握できるように努めている。また家族様の来訪時には、近況を伝えると共に出来れば意向も伺っている。	つねに職員は、利用者に寄り添って接しており、今・何をどう思っているかなどを把握するよう努めている。また、利用者一人ひとりの個人記録から、職員間で気づいたことなどを話しあい、チームで共有化を図ったうえで、本人の希望や意向の実現に向けた支援のあり方について話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者基本台帳により、本人を取り巻く今までの生活情報を把握出来るよう、本人のプライバシーに十分配慮しながら聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式の焦点情報「私ができること」に注目し、その人の有する生活能力全般の把握に努めている。また、介護支援記録を用い、各利用者様一人一人の一日の様子を記録し、出来ることへの支援評価に活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人又は家族様更には関係者より、本人様の状態像や生活習慣、好み、意向や希望等を聞き取りながら、その人にとってよりよい介護計画の作成ができるよう努力している。定期的なモニタリングにより、適切に介護計画の変更を行っている。	利用者や家族、理学療法士、関係者等から、本人の心身状況や生活習慣、嗜好、希望等を聞くよう努め、それぞれのアイデアを介護計画に反映している。定期的にモニタリングを実施し、適切な介護計画の変更へと繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は各人の個別ファイルを作成し、日常生活の様子や足跡、心身の変化等を昼夜に亘り記録している。その中で得た気づきや工夫等の情報はチームで共有しながら、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の状況や家族様の実情に応じて、買い物送迎や散髪・受診介助の支援等、臨機応変の対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			東ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中で、農業を営んでいる人たちの協力を得て、農園での作業に取り入れ収穫を共に分かち合っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、家族様と話し合い、本人にとって適切な医療が受けられるよう支援している。	利用者や家族と話し合ったうえで、適切な医療の受診を支援している。緊急時には協力医療機関の受診が可能な体制を整備している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内の看護師が利用者様の健康管理を行っており、介護職の気づきも含め母体法人の医療と連携を取りながら適切な対応が取れるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族様と相談しながら、利用者様の情報を医療機関に提供し、入院や退院が円滑に進められるよう取り組みを行っている。また、退院後のケアについても家族様や医療機関と情報交換しながら支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応について、入居時に本人様、家族様に説明し話している。また、終末期に向けたケアに対しても本人様、家族様の意思を最大限に尊重し支援に取り組んでいる。	入居時の段階で、やむを得ず重度化に至った場合の支援のあり方について、本人と家族に十分な説明を行い話している。また、終末期の支援については、本人や家族の意志を最大限に尊重し、チームで支援するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応への研修会(訓練を含む)を随時実施して技術の習得に努め、全ての職員が事故や災害等、実際の場面で対応に万全を期すことができるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や地域の方の協力を得て、避難訓練や通報訓練、消火器の使用訓練などを定期的に実行している。	定期的に、地域住民や消防署の協力を得たうえで、避難訓練や通報訓練、消火器の使用訓練を実施している。農協の宿直員や地域住民の協力を得られる体制も築いている。法人として災害時の非常用食料や備品を準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	東ユニット		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はプライバシー保護に関する研修を定期的実施している。利用者様は人生の大先輩であることを常に念頭に置き、利用者様の傍に寄り添いゆったりとした雰囲気の下で話しかけることを心掛けている。	定期的、全職員でプライバシー保護に関する研修を実施し、具体的に話し合っている。利用者様は人生の先輩であることを、つねに職員は念頭に置いたうえで、寄り添いつつゆったりとした雰囲気の言葉かけに努めている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が考えをまとめられるよう「どうですか？」と問いかけ間が持てる雰囲気作りに努めている。				
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「コーヒー紅茶は如何ですか、それとも」など、職員側から発案し働き掛けを行い利用者様に決定して頂いている。				
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室の洗面台には、使い慣れた化粧水・乳液などのおしゃれ用品を置き、利用者様が洗面台の鏡を見ながら身だしなみを整えている。				
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は準備から盛り付け配膳に至るまで出来ることは利用者様と共に行い、職員も利用者様と同じテーブルを囲みながら、楽しく食事ができるようその雰囲気づくりを心がけている。	食事の準備や配膳、後片付けなど、利用者のできることは職員とともに実施している。利用者と職員で同じテーブルを囲み、食事を楽しむことができるような雰囲気づくりを心がけている。誕生日や季節の行事等には特別な献立を用意するなどして、食欲を高めたり、食事への関心を引き出したりするための工夫を行っている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により、各人のカロリーや水分の摂取量が管理されており、カロリーの過不足や栄養の偏りがないよう、毎日の摂取量を記録しながら利用者様の食生活を支援している。				
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後居室にて、口腔ケアが出来るよう声掛け誘導を行っている。車椅子使用者にも、洗面台につかまり立っていただき、見守りの下、自力でブラッシング・うがいが出来るよう支援している。				

自己	外部	項目	自己評価	東ユニット		外部評価		
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、各人の排泄パターンを把握するよう努めている。尿パッドを使用している利用者様も、排尿前誘導へと繋げていけるようトイレ誘導介助を行っている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。パッドを使用している利用者には、タイミングを見計らって声かけを行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。				
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すために、なるべく繊維質の多い食物や朝食時に牛乳、その他随時ヨーグルト等の乳製品を提供している。また、水分量もチェックし、1日1リットル以上を目安に、飲用できるよう心掛けている。					
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は日中の入浴希望者が大半であるが、希望があれば何時でも入浴できるよう支援体制を整えている。	利用者の希望やタイミングに応じて入浴することのできる体制を整えている。衣類の着脱や入浴時の見守り時には、特に羞恥心やプライバシーを損なうことのないよう配慮している。				
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後横になりたいと希望される利用者様には適宜対応している。また、夜間不眠の方には、昼夜逆転にならないよう配慮した支援を行っている。					
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の処方内容ファイルを用い、職員が各人の服薬内容を把握し、服用時の確認を行っている。また服薬による異常等の見られる時には、医師や家族様に連絡し、適切な退所が出来るよう支援している。					
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時間き取った基本情報を基に、一人一人の出来ること出来ないことシートを作成し、その人の力を最大限に生かした支援が出来るようにしている。					
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各利用者様の習慣や楽しみごとに合わせた外出の機会作りをしたり、買い物や散歩あるいは草花や菜園の手入れ等、戸外に出て気分転換しながら屋外活動が楽しめるよう支援を行なっている。	利用者の習慣や楽しみごとに応じた外出の機会を設けるよう工夫している。買い物や近隣の散歩、農園の手入れのほか、事業所前のウッドデッキでの日光浴等、戸外での活動を楽しむことのできる時間を多く設けている。				

自己	外部	項目	自己評価	東ユニット		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行きレジにて支払いの際、職員が傍に付き添い利用者様ご自身に支払いをして頂いている。				
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている利用者様は家族・知人とのやりとりを自由に行っており、またホームの電話を利用して交信したい時には何時でも話ができるよう支援している。				
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには各月毎に季節感あふれる壁面題材や四季折々の草花を飾ったり、また遮光カーテンにより室温・光線の調節を行っている。	生活空間のなかに台所があるため、調理の音や匂いで五感を刺激し、家庭で生活をしているような雰囲気を感じることができる。また、ホールには、季節を感じることでできる花を植えたり、壁面に利用者や職員で作った作品を飾ったりしている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やホールの所々にソファを設置し、TVを見ながら、また気の合う方との会話が出来るよう工夫している。				
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	園芸が趣味である利用者様には、居室に鉢植えの花を置き、水やりなど手入れができるよう対応している。	事業所では、居室に家族の写真や手作りカレンダーを持ち込んでもらっている。利用者によっては、鉢植えの花の水やりや手入れを行っている方もおり、趣味を楽しむことができるようにするなど、一人ひとりが居心地良く過ごすことができるようにしている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	南側デッキに布団干しを置き、利用者様の力量に応じて職員の見守りの下、洗濯物を干したり乾き具合を確かめ取り入れたりしている。				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			西ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝のミーティング時に全員でサンファミリー理念を唱和し、事業所と地域が一体となってサービス提供できるように、管理者と職員は常に念頭に置いている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎年さつま芋苗を提供していただいたり、収穫した柿などおすそ分けしていただいたり、また地域のイキイキサロンの際氷を提供したりと、地域との繋がりを大切に交流を続けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常介護で得た認知症ケアに関する知識や取り組みへの経験のなかから、地域交流の機会を通して、高齢者の暮らしに少しでも役立てられるような取り組みを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者様、ご家族様はじめ、美馬市地域包括支援センター職員や地域住民の代表者の方々に、暮らしの状況を報告し、そこで頂いた意見やアドバイスを、サービス向上に反映出来るよう取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員と機会あるごとに連絡をとり、待機者の有無等、また運営推進会議への出席を依頼している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束の弊害を正しく認識するために、介護保険指定基準における禁止11項目を再確認し、高齢者の権利擁護等について議論するなどして、職員共有の認識のもとに身体拘束のないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者及び職員は、2005年に成立の「高齢者虐待防止法」に定められた、高齢者虐待の定義や虐待の早期発見、更に虐待に関する関連情報等を学習しながら、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	西ユニット	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、成年後見制度についてホーム内研修を行い、また家族様にも説明し必要に応じて適切に活用が出来るよう支援している。					
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、利用契約書及び重要事項を丁寧に説明し、理解と納得を得た後に捺印の上同意を得ている。その後も、状況に応じてその都度説明を行い、家族様の同意確認を行っている。					
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、家族様の意見や苦情等は、何時でも気軽に相談できるような機会と体制を整えており、頂いた意見や苦情等をホームの運営に反映できるよう努力している。					
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者や管理者は、情報交換会(ミーティング)やケース会議等の機会を通して職員からの運営に関する意見や提案を聞き取り、現場の意見や考えを尊重しながら、それをホーム運営に反映できるよう努力している。					
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、定められた労働時間を厳守し、更に休養が確保できる休日体制をとるなどして、働きがいのある職場環境や労働条件の整備に努めている。					
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護の経験者、未経験を問わず、サンファミリーの理念に適った人材を育成するために、継続的にホーム内研修会を実施したり、日常の介護業務に携わる中で介護理念や技術等を習得出来るようにしている。					
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、美馬市グループホーム連絡協議会に参加しており、今後職員のホーム間交流を実施していけるよう計画予定である。					

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			西ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様本人は、生活に対しての不安や戸惑いが大きいため、利用の相談から入居に至る過程において、本人様の意向や希望を聞き取る機会を多く持ちながら、良好な関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	あらゆる機会を通じて家族様の要望等を聞き取り、問題の解決に結びつけることができるよう、家族様との信頼関係の構築に努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時点から、本人家族様が今一番必要としている課題やニーズをしっかりと見極め、必要があれば医療面でのサービスを提供するなどしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護職員は、調理や掃除等の日常生活を利用者様と共に過ごす中で、相互に支え合うという関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、利用者様を支援するに当たり、家族と「支え合う」という共通の認識に立って、何事も家族に相談し意向を尊重しながら、本人を支えていくという関係作りに努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の来訪時には、湯茶をもてなし話がスムーズにできるようきっかけ作りをしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様個々の個性や特徴を把握し、気の合う者同士楽しく過ごせる場面や、みんなで楽しく過ごせる時間作りをするなどして、利用者間同士良好な関係のもとに、支え合いが出来るよう職員がその調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	西ユニット	自己評価	実践状況
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、佐藤内科入院時は面会に出向いて行くなど、連絡をとりながらその後の様子を尋ねる等して、関係継続に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の暮らしへの希望や意向の把握に努めている。意思決定の困難な方には、家族や関係者の方から情報を収集し、希望や意向に沿うよう支援を行っている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の基本情報台帳により、本人を取り巻く今までの生活情報の把握に努めている。把握するに当たっては、その意味と重要性を本人や家族に十分説明し、本人のプライバシーには十分留意しながら聞き取りを行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式の焦点情報(私が出来ること、出来ないことシート)の活用により、「できないことより出来ること」に注目しながら、本人の生活能力全般への把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人又は家族更には関係者より、本人の状態像や生活習慣、好み、意向や希望等を聞き取りながら、その人にとってよりよい介護計画の作成ができるよう努力している。定期的なモニタリングにより、適切に介護計画の変更を行っている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は各人の個別ファイルを作成し、日常生活の様子や足跡、心身の変化等を昼夜に亘り記録している。その中で得た気づきや工夫等の情報はチームで共有しながら、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況や家族の実情に応じて、買い物や送迎や散髪・受診介助の支援等、臨機応変の対応を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	西ユニット	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向を最大限に尊重しながら、地域社会との交流が出来るよう、ボランティアの導入を図るなどして、協働への取り組みに努力している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、家族様と話し合い、本人にとって適切な医療が受けられるよう支援している。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内の看護師が利用者の健康管理を行っており、介護職の気づきも含め母体法人の医療と連携を取りながら適切な対応が取れるように支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と相談しながら、利用者の情報を医療機関に提供し、入院や退院が円滑に進められるよう取り組みを行っている。また、退院後のケアについても家族や医療機関と情報交換しながら支援している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前の段階より、家族や主治医と相談しながら適切な対応ができるよう取り計らっている。終末期のケアに関しては、本人、家族の意思を最大限に尊重しながら、適切なケア対応が出来るよう取り組んでいる。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応への研修会(訓練を含む)を随時実施して技術の習得に努め、全ての職員が事故や災害等、実際の場面で対応に万全を期すことができるよう取り組んでいる。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練や通報訓練、消火器の使用訓練等を定期的に行っており、地域の協力体制については、運営推進会議等に於いて協力を依頼している。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			西ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はプライバシー保護に関する研修を定期的に実施している。利用者様は人生の大先輩であることを常に念頭に置き、利用者様の傍に寄り添いゆったりとした雰囲気の下で話しかけることを心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望、好み等が表出できるような雰囲気づくりを行うとともに、なるべく自分の意思で希望や願いを決定していけるよう働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の意向を押し付けるのではなく、個々の生活に合わせた、より好ましい生活支援ができるよう取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みに応じたヘアースタイルや衣服を選んだり、化粧水で肌を整えたりする等、個性のあるおしゃれや身だしなみの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は準備から盛り付け配膳に至るまで出来ることは利用者様と共に行い、職員も利用者様と同じテーブルを囲みながら、楽しく食事ができるようその雰囲気づくりを心がけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により、各人のカロリーや水分の摂取量が管理されており、カロリーの過不足や栄養の偏りがないよう、毎日の摂取量を記録しながら利用者様の食生活を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがいや義歯洗浄等の口腔ケア支援により、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			西ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チエツクシートを活用しながら個々の排泄パターンを把握し、そのパターンや排泄の兆候に合わせたトイレ誘導を行いながら、オムツ使用者の方でもトイレでの排泄ができるよう、排泄の自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すために、なるべく繊維質の多い食物や乳製品の摂取、水分補給を行い、更に散歩やラジオ体操等日中の運動を心がけながら便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望を大切に、個人の好みに合わせた入浴が可能な体制を整えている。衣服の着脱や入浴の見守り介助に対しては、羞恥心やプライバシーを損なうことが無いように配慮し、本人の気持ちや習慣に合わせた支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠チエツクシートを活用しながら、睡眠パターンや生活習慣等を把握し、個々に応じた生活のリズムづくりと安眠導入への支援を行っている。また、日中はその人の疲労度に応じて休息が取れるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法用量を全職員が把握し、服用時の確認を行っている。また、服薬による異常や変化が見られる場合には、その情報を家族や医師に連絡し、適正な対処が出来るよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の暮らしを共にする中で、利用者の役割や楽しみ事を見つけ出し、その人なりの経験や知恵を生活の場に発揮しながら、自分らしい暮らしができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の習慣や楽しみごとに合わせた外出の機会作りをしたり、買い物や散歩あるいは草花や菜園の手入れ等、戸外に出て気分転換しながら屋外活動が楽しめるよう支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	西ユニット	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様が自分でお金を持つと言うことの大切さを認識しながら家族と相談の上、出来る限り小遣い銭程度は自己管理してもらうようにしている。					
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている利用者様は家族・知人とのやりとりを自由に行っており、またホームの電話を利用して交信したい時には何時でも話ができるよう支援している。					
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所は生活空間の中にあり、ご飯や煮物の匂いで五感を刺激し、家庭の雰囲気を感じながら生活できるよう工夫している。更にホーム内には、四季折々の草花を飾るなどして季節感が持てるよう工夫している。					
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール、廊下等のコーナーにソファや椅子等を設置し、利用者様が1人で過ごしたり、仲のよい者同士でくつろげるよう、居心地のよい生活空間を確保している。					
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の状況に応じて、家族の写真や手作りカレンダー等を居室に飾るなどして、自分らしく居心地よく過ごせるよう工夫している。					
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行不安定の利用者様には居室内へ手すりを設置したり、歩行器で目的地まで移動するなどして安全の確保に努めている。					